

35年目のありがとう!!

『合唱の楽しさを伝えたい』と、自宅でスタートさせた合唱団は、今月35年目に入りました。

このように長い間活動を続けて来られましたのは入団してくれる子ども達、そして、支えてくださる大変多くの方々のおかげです!

また今回初めて、南総文化ホールとの共催という形で開催させて頂けますこと大変嬉しく感謝申し上げます。

南総文化ホールでのコンサートの初回は2002年の4月でした。響きの素晴らしさに感動した子ども達の『南総のホールで毎年コンサートを開催したい』という夢を多くの方が支えてくださり、お蔭で2005年から2015年まで11回連続して開催させて頂く事が出来ました。(2016年度は2017年3月に春のコンサートして開催)

今日は08・06も30名程集まり歌ってくれます。現役の時には決して楽しい事ばかりではなく、部活との板挟みに泣いた事もあったと思いますが、『卒団したからこそわかる想い』を胸に『この仲間と歌いたい!』という気持ちでステージに立ってくれると思います。

今年度リーダーとなる高2は8名おりますが、部活の為に2名は休団しており、他の6名も全員が揃う日はほとんどないという状況にあります。それでも部活の合宿や試合から駆けつける仲間と歌う時、とびっきりの笑顔に戻ります。彼らにとっての合唱の楽しさも『この仲間と歌いたい』という想いなのだろうと思います。

思う様に練習出来ない部分がたくさんありますが、これが今の鴨川少年少女合唱団の精一杯の姿です。ありのままを見て頂き、アンケートにもメッセージを頂ければ幸いです。

本日は、ご多用の中ご来場くださり誠にありがとうございます。どうぞ最後までごゆっくりお聴きください。

高橋史郎・和貴子

お原真しい

えんそうちゅう しず

●演奏中は、静かにきいてね!

きゃくせき た の

●客席では、食べたり、飲んだりしないでね。

きゃくせき はし

●ロビーや、客席では走らないでね

〔保護者の皆様へ〕

お子様がぐずったり、騒いだり、泣き止まない場合には、一度ロビーに出るなど、周りのお客様へのご配慮をお願いいたします。尚、ロビーにありますモニターでコンサートの様子をご覧いただけます。



2017夏のコンサートによせて

鴨川少年少女合唱団名誉顧問

本多利夫

残暑厳しい折ではございますが、ご来場の皆様にはお元気でご活躍のご様子何よりでございます。

本日は鴨川少年少女合唱団夏のコンサートが、多くの皆様のご来場を賜りまして、盛会に開催されました事、関係者の一人として大変有難く皆様に厚くお礼を申し上げます。

本合唱団は昭和58年に発足し35年目を迎えております。春、夏のコンサートは、市内外の皆様から開催が望まれ、今やこの地の風物詩として開催が待ち望まれるようになりました。

これもひとえに、主役であります子供達の音楽への憧憬、そして努力と相俟って高橋史郎、和貴子先生の情熱、愛情あふれるご指導と、ご父兄皆様のご支援の賜と存じます。

先頃、本市の国際姉妹都市マニトワック市へ伺う機会がございましたが、レイクショア吹奏楽団マイケル・アーンツ指揮者はじめ、多くのマニトワック市民が合唱団の二度に亘る素晴らしい公演に想いを寄せておられました。

合唱団はこれまで自己研鑽はもとより、東日本大震災被災地石巻市への三度の慰問公演はじめ、数々の素晴らしいご功績を挙げておられますが、少子化が進む中であって団員確保も一段と厳しいものがあるとも伺っております。

ご来場の皆様、関係者の皆様の一層のご協力、お力添え賜りますよう私からもお願い申し上げます。

【鴨川少年少女合唱団員】 ★は29年度団長

高3	若月 鈴音	大溝 有紀			
高2	★川戸 来美	★鈴木 麻由	金野 琉聖	大塚 菜緒	
	堀江 祐丞	平野菜々葉	(休団 庄司朱花 佐久間凌香)		
高1	山口 春萌	濱崎 優直	根食 拓海		
中3	鈴木 奏太	山田ころろ			
中2	星場 未宇	渡辺 杏奈	吉野 快		
中1	犬石 彩貴	佐久間大輝	庄司 由季	山口 郁斗	
	川俣 快斗	中野 翔太	廣田 美月	小原 千奈	
小6	吉野 爽	吉田 真己	清水 直緒	川名 佑磨	
	高橋 玲花				
小5	佐藤 皓月				
小4	渡辺 桃佳	泉 優樹	金野小優姫		
小3	山田 莉乃	若杉 愛々			
小2	吉田 文	中野 葉那	猪込 莉子	鈴木 聖桜	
	本間 里彩				
小1	泉 菜月樹	年長 若杉 望々			



とき 2017. 8. 20 (日) 14:00 開演

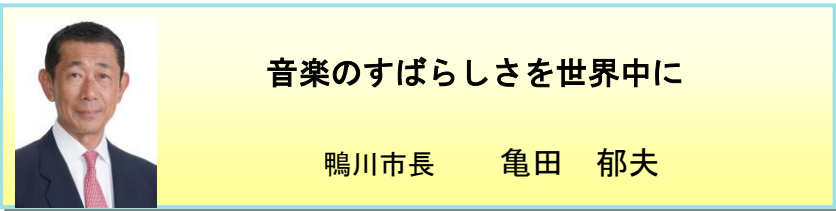
ところ 南総文化ホール 入場無料

主催/鴨川少年少女合唱団
共催/千葉県南総文化ホール

後援/鴨川市 館山市 南房総市 鋸南町
鴨川市教育委員会 館山市教育委員会
南房総市教育委員会 鋸南町教育委員会
鴨川市国際交流協会 鴨川ライオンズクラブ
鴨川ロータリークラブ 房州日日新聞社
千葉県少年少女合唱連盟
NPO 法人(JJCS) 日本少年少女合唱連盟

お問合せ 鴨川少年少女合唱団事務局 高橋(TEL/FAX 04-7093-0041)

E-mail: s930041@ybb.ne.jp



本日ここに「鴨川少年少女合唱団 2017 夏のコンサート」が盛会に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

貴合唱団におかれましては、昭和 58 年の結成以来、34 年の長きにわたり、音楽文化の振興に貢献されておりますこと、深く敬意と感謝を申し上げます。

毎年恒例の公演をはじめ、本市の国際姉妹都市であるマニトワック市での親善公演や、東日本大震災被災地の石巻市におけるコンサートなどを通じ、団員皆さんの歌声は、あらゆる垣根を越えて多くの人々に届けられてきました。

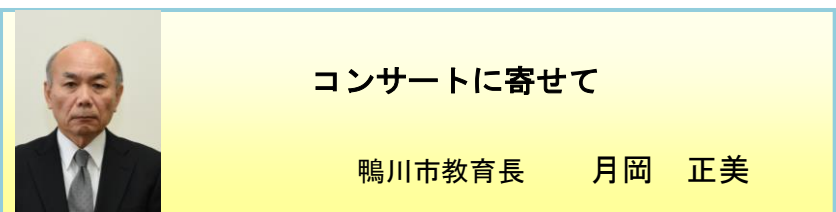
特に今年 5 月には、プロ野球ロッテマリーンズ応援ツアーにおいて、国歌斉唱の披露という貴重な経験をされたわけではありますが、私もスタンドから皆さんを誇らしく思いながら、伸びやかな歌声に聞き入ったことを覚えております。

貴合唱団の公演を拝聴するたび、その素晴らしい歌唱力はもちろんのこと、皆さんの礼儀正さ、チームワークの良さに、私はいつも驚かされます。高橋史郎様・和貴子様大切にされている「笑顔」・「挨拶」・「感謝の気持ち」が、子ども達に伝わり、先輩から後輩に受け継がれていることの証であろうと確信するものです。

団員皆さんの真心のこもった歌声とメッセージから元気を頂いている 1 人として、今後も活動が末永く続き、音楽の素晴らしさを世界中に広めてくださるよう願っております。

プログラムを拝見しますと、よさこいソーランのオープニングに続き、「日本のうた」、「ミュージカル」そして 06・0B の皆様との共演による「私たちの好きな歌」の 3 部構成で披露されると伺っております。観客席と一体となり、厳しい暑さも吹き飛ばすような、楽しく充実したひと時となるよう期待いたします。

結びにあたり、鴨川少年少女合唱団の益々のご発展をご祈念し、併せて、ご来場の皆様には、合唱団へのさらなるご支援をお願い申し上げ、お祝いの言葉といたします。



鴨川少年少女合唱団が結成 35 年を迎えられたことに対しまして、心よりお喜び申し上げます。昭和 58 年の結成以来、永きに渡り音楽を通じた、情操教育により多数の立派な少年少女を、社会に送り出された実績に対し、深く敬意を表します。

貴合唱団は、合唱技術の向上と同時に豊かな心の人間育成を目指して活動を続けてこられました。合唱は、ひとつの音だけではなく和音が重なり合い創られるハーモニーです。同じパート、違うパートの音を聞きながら、練習を積み重ね声を合わせて歌う過程で、仲間を理解し、協調し「和」を大切にしながらハーモニーを築き上げます。音と音が出逢い、心と心がつながり、歌える幸せに感謝して美しいハーモニーを奏でてください。

第 2 部の『地球の秘密』は、主人公が地球環境を守ることの大切さに気づき、きれいな地球を守っていくためには、人々が助け合わなければならないことを世界に訴えていく物語、「あいと地球と競売人」を基に構成されています。きれいな地球は、子ども達が安心して生活できる未来であり、夢と希望に満ちあふれた世界であると思います。美しい歌声と地球環境保護メッセージを乗せて私たちの心に届けてください。

夢・希望・未来へと羽ばたいていく安房の子ども達の素直な歌声が、高橋史郎・和貴子両先生の御指導の下、いつまでも受け継がれ、歌の花が咲き続くよう、歌が大好きな人たちと見守り続けたいと思います。

本日のコンサートでは、練習の成果を遺憾なく発揮され、気概に満ちた美しい歌声を伸び伸びと披露されることを期待しています。結びに、貴合唱団のさらなる発展をお祈り申し上げお祝いの言葉とさせていただきます。



プログラム

オープニング よさこいソーラン（踊り）

第 1 部 日本のうた

指揮 高橋 史郎 ピアノ 鈴木信太郎

1. 汽車ポッポ
作詞 宮原 薫 作曲 草川 信
2. うみ
作詞 林 柳波 作曲 井上武士
3. 七つの子
作詞 野口雨情 作曲 本居長世
4. 牧場の朝
作詞者不詳 作曲 船橋栄吉
5. 赤とんぼ
作詞 三木露風 作曲 山田耕筈
6. あのこはたあれ
作詞 細川雄太郎 作曲 海沼 實 編曲 薬師神武夫
7. 谷茶前ぬ浜
沖縄県民謡 作・編曲 山本直純

第 2 部 ミュージカル「地球の秘密」

指揮 高橋史郎 ピアノ 鈴木信太郎 エレクトーン 岩嶋日陽
キーボード 三谷美月

坪田愛華さんと「地球の秘密」

坪田愛華さんは 1979 年、島根県の平田市で生まれました、家の近くに田んぼや山のある自然に恵まれた環境で育った愛華さんは、小さいころから本を読んだり、絵を描いたりするのが好きな女の子でした。小学校に入ってからストーリーのあるマンガも描くなど、日頃からいろいろな絵を描いていました。

小学校 6 年の 2 学期に環境問題について自由に調べて自分の好きな形で発表するという宿題が出たとき、愛華さんは得意なマンガで表現することにしました。それが、マンガ「地球の秘密」で地球環境の仕組みや問題点、環境を守るためにはどうすればいいかなどを二ヶ月がかりで描き上げました。かわいく、親しみの持てるキャラクターを使ったり、図を入れたりするなど、小さい子でもわかりやすいように工夫されています。ところが、「地球の秘密」を描いてからわずか数時間後、愛華さんは突然脳内出血で倒れ、12 歳でこの世を去ったのです。

しかし、愛華さんのメッセージは作品の中に生きていました。遺作となった『地球の秘密』をご両親が印刷をして友達や先生に配ったところ、小学校 6 年生の作品とは思えないほど優れた内容が評判になり、テレビや新聞にも大きく報道されました。

そして、日本はもちろん、様々な国の言葉に訳されて世界中で読まれ大きな感動を呼んだのです。

亡くなってから 2 年後の 1993 年、国連環境計画が環境問題に大きく貢献した人に贈る『グローバル 500 賞』が愛華さんに贈られました。

第 3 部 私たちの好きな歌(06・0B と共に)

指揮 高橋 史郎 ピアノ 鈴木信太郎

1. Hail Holy Queen
(Traditional)
2. どんなときも
作詞・作曲 榎原敬之 編曲 高田 弘
3. 歌は心の羅針盤
作詞 高橋和貴子 補作 JjCS 作曲 薬師神武夫
4. COSMOS
作詞・作曲 ミマス 編曲 富澤 裕
5. 瑠璃色の地球
作詞 松本 隆 作曲 平井夏美 編曲 白石哲也
6. 栄光の架橋
作詞・作曲 北原悠仁